

「時宜にかなったことばを」
(箴言15章22節～28節)

牧師：原 雅幸

序) 箴言～知恵文学の代表

・箴言とは知恵を与えるために、短い格言(覚えやすさのため)を集めて、吟味した上で記されたもの。ふさわしい取り扱い方法がある。

1) 神の知恵か、世の知恵(人間の知恵)か～箴言の大前提～

- ・知恵とは、生活の場面で望ましい行動を選択するための技術である。
- ・「神の知恵」は自分の人生において、神の望まれる結果を実現するためのもの。⇔「世の知恵」は他の人より優位になろうとするもの。知恵の質ではなく目的が問題。22節の「成功」はこの基準で図られたもの。
- ・「主を恐れることは知識の初め」⇒人生成功の定義をひっくり返せ!
- ・自分が神の前に有限な人間であることをわきまえ、へりくだるなら、相談や助言は必須になる。人を出し抜いて「成功」しよう(「やもめ」に代表される社会的弱者を切り捨てよう)という「世の知恵」は愚かな罪。
- ・人の目に「腰が低いか」は25節「心の高ぶる者」とは関係ない。26節の「悪人の計画」は犯罪計画ではない。「良い事」でも、目的がどこに向かうかが決定的。

2) 様々な格言のつながりの中で～箴言にも文脈がある～

- ・それぞれの格言は独立した主張をしているが、その意味を考えるとときには、前後関係で理解する必要がある。
- ・15章1節～16章8節がひとつのユニットで、1～17節が前半、18節以降が後半という構成で似たような格言が繰り返される。
- ・短い格言のもつ限界(正確性の欠損)を前後関係が補っている。
- ・23節の格言は、このユニットの中で際立つもの。(似たものがない!)
- ・人が神の望まれる結果を求めて相談してきたとき「適切な返事」「時宜にかなったことば」を口にできたなら、それは神の祝福なのだということ。

3) 基本的な価値観の表明～箴言を受け止める～

- ・「時宜にかなったことば」は timely よりも in season 「季節に合わせて」⇔「正しいことば(真理)」なら、いつでもどこでも通用するのではない。
- ・真理を隠してはならないが「神の知恵」を念頭に置くなら、相手の状況を「思い巡らす」ことが必須となる。時間をかけなくては「親切なことば」は生まれない。(「きよい」とは、鉱物の純粋な結晶を指す言葉)



結) 時宜にかなったことばを求めて生きよう

名前(_____)

◆お話を聞きながら、答えを考えましょう。



① 神の知恵とは、どういうものですか。

- () 人間には、思いつかない、すごいアイデアのこと
- () 神さまの頭がよいこと
- () どうしたら、ほかの人よりうまく生きられるかを教えてくれるもの
- () どうしたら、神さまの願っていることが自分の生活に起こるかを教えてくれるもの

② あなたの友だちに、聖書のこと、神さまのことを教えてさしあげるとき、
気をつけることは何でしょう。

◆お話を聞いた後で、考えましょう。

* あなたは、どういうふうになったら、自分の人生は成功したと思いますか。

～教会クイズ(教理問答)～

みんなで一週間
考えてみよう!

Q020 「全能の…神」を信じるとは、どういうことですか。

A020 神さまに [] [] [] [] ことは、一つもないと信じること
です。人の力では [] [] せない者にまで、神さまのすべてを
与えてくださるほど、神さまは [] [] [] で偉大な力を
もっておられます。

□ヒント□ 創世記 18 : 9-15、ヨブ 42 : 2-6、イザヤ 57 : 15-19、ホセア 11 : 8-11、マタイ 19 : 23-26